

あきは かいどう
秋葉街道

歴史の道・信仰の道

秋葉街道は、近世中・後期から、火防の神としても知られる秋葉神社参詣のために盛んに利用された道。①高遠町的場－長谷－分杭峠－大鹿村－地藏峠－南信濃－青崩峠－遠州に至る道筋、②飯田市八幡－飯田市下久堅・上久堅－小川路峠－南信濃で合流、の二つの道筋がある。秋葉信仰が広まる前から存在していた古い道で、諏訪からは、太平洋への最短経路であった。古来より、天竜川など大きな川は越えることが困難であった。中央構造線に沿う道は、直線であつた。古来より、天竜川など大きな川は越えることが困難であった。中央構造線に沿う道は、直線であつた。古来より、天竜川など大きな川は越えることが困難であった。中央構造線に沿う道は、直線であつた。古来より、天竜川など大きな川は越えることが困難であった。中央構造線に沿う道は、直線であつた。



飯田市上村上町の中央にある「秋葉・琴平」の碑
古くは飯田と遠山谷を結ぶ主要道で、宿場町として賑わい、馬宿6軒、
旅籠3軒、商家10軒があつた



大鹿村安康の秋葉街道より、眼下の安康露頭と、遠く大鹿村方向を見渡す

秋葉街道
の歴史

縄文期から、海へ出る道、海から塩を信州へ運ぶ道、さらに西日本との交流の道として利用されてきた。中世南北朝争乱時代、戦国動乱期には、いずれも戦場への軍用路とされた。江戸時代からは秋葉神社参詣としての往来が盛んとなった。この街道には多くの城館跡、神社、遺跡、伝説が残されている。

山で採れる
塩

秋葉街道沿いの大鹿村鹿塩に湧き出る水には、海水と同じ濃度の塩分(1Lに30g)が含まれる。海水に含まれるニガリなどはなく、純粋な食塩水に似る。塩泉は海の岩板が下へ入り込んでいく時、地下深くまで沈み込んだときに搾り出されてくる。

information

□ アクセス

北の起点・伊那市高遠
(伊那ICから15km
車→30分)

□ 所在地

伊那市、大鹿村、
飯田市

